

情報提供



国立特別支援教育総合研究所 病弱班 土屋忠之（班長）

1

National Institute of Special Needs Education

病弱班 研究員

国立特別支援教育総合研究所

病弱班メンバー

土屋 忠之（班長）

大崎 博史（副班長）

生駒 良雄

嶋野 隆文

五島 脩

2

National Institute of Special Needs Education

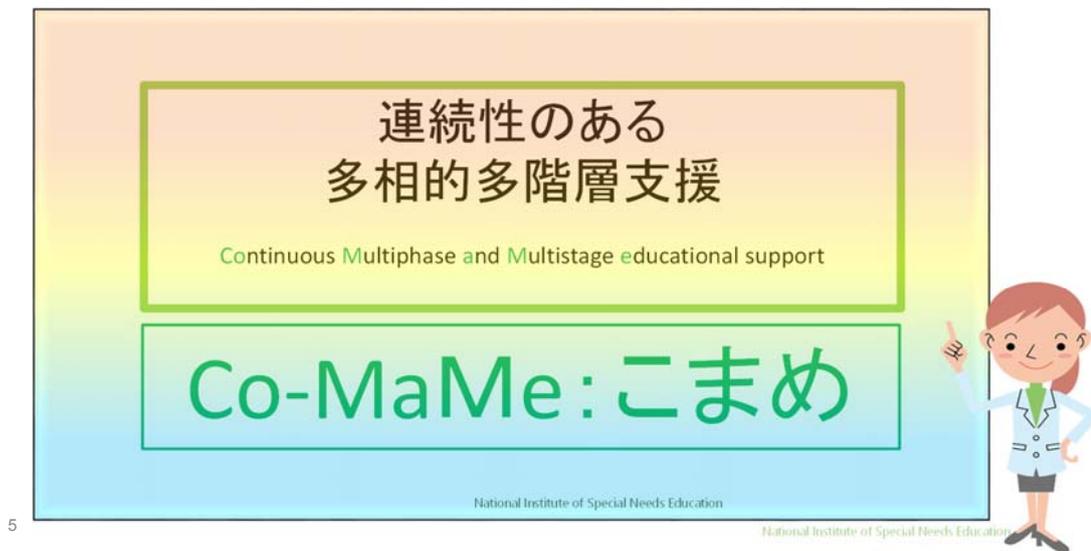
紹介する研究活動

1. Co-MaMeセミナー
2. Co-MaMeガイド（仮称）
3. 全病連心身症等研究委員会事例集 編集等への協力
4. 全国病弱虚弱教育実態調査（施設調査・病類調査）への協力
5. 「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」事例整理集
6. 遠隔教育Q&A
7. 特別支援教育専門研修 病弱教育専修プログラム
- 3 8. 令和4年度の研究

National Institute of Special Needs Education

1. Co-MaMeセミナー

-こころの病気等のある児童生徒への支援方法の普及-



1 日時

- ・ 令和4（2022）年1月29日（土） 14:00～15:30

2 目的・対象

精神疾患・心身症、発達障害の二次的な障害等、こころの病気のある子どもへの多相的多階層支援（Co-MaMe）についての理解を深め、実際の支援に役立てることを目的とする。

3 参加申込者数、実施方法

- ・ 134名の参加申込み（遠くは、海外日本人学校からも）
- ・ Zoomミーティングによるオンラインセミナー

4 内容

- (1) 企画主旨
- (2) **講義**「こころの病気のある子どもへの多相的多階層支援 (Co-MaMe) について」
- (3) **演習**「こころの病気のある子どもへの多相的多階層支援 (Co-MaMe) の実際」
- (4) まとめ
 - ①**参加者から**演習で検討した事例や感想等の発表
 - ②**まとめと講評** (特別支援学校 (病弱) での**実践事例の紹介**を含む)

5 参加者アンケートから

- Co-MaMeはこれまで、自分が勘でやっていたことを形にさせていただいているのでとてもありがたいです。病弱の特別支援学校でなくても、多くの子供達の支援の役に立つと思います。ありがとうございます！！
- 実態をしっかり把握、それも、一人ではなく、学年で学校で複数人で実態をいろんな側面から把握し、支援・配慮等について考えていくことが大事だと改めてわかりました。
- 一人ではなく、複数人で児童生徒の実態を把握し、組織として支援・配慮を意図的継続的に行っていけるようにしなければいけないと改めて感じました。支援のイメージ図も視覚的にわかりやすく話し合うのにとっても効果的だと感じました。
- 「支援のイメージ図」を用いることで、対象児が「受容期」「試行期」「安定期」のどこにいるのかの違いも明らかになることがわかりました。

6 研究所Webサイト

トピックス

令和3年度「こころの病気のある子どもへの教育支援（Co-MaMe：こまめ）セミナー」の開催について [160K pdfファイル] PDF

- 日時：令和4（2022）年1月29日（土） 14:00-15:30
- 対象：全国の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校で、こころの病気のある児童生徒等の支援に関わっている教員
- 方法：Zoomによるオンラインセミナー（参加費無料、定員250名、事前申込制、先着順）
- 内容：講義「こころの病気のある子どもへの多相的多階層支援（Co-MaMe）について」
演習「こころの病気のある子どもへの多相的多階層支援（Co-MaMe）の実際」
まとめと講評

※当日の資料はこちらからダウンロードしてください。

「資料2 アセスメントシート・整理用シート.pdf」については、事前に印刷をお願いします。

- ・資料1 講義・演習用資料 [2M.pdfファイル] PDF
- ・資料2 アセスメントシート・整理用シート [231K.pdfファイル] PDF
- ・資料3 支援のイメージ図 [1M.pdfファイル] PDF

※オンライン配信に要する通信料等は、各目の負担となります。

※セミナー終了後に、令和3年度の病弱班「Co-MaMe活用」研究の一環としてのアンケート調査にご協力をお願いいたします。

→参加申込みフォームはこちら https://www.nise.go.jp/nc/each_obstacle/sickness?category=study より

Co-MaMeに関する資料
がダウンロード可能です。
学校や地域での実践や
研修にお役立て下さい。

2. Co-MaMeガイド

「こころの病気のある児童生徒への教育支援（Co-MaMe） ガイド（仮称）」

こころの病気等のある子どもの教育支援（Co-MaMe）ガイド 目次（予定）

○はじめに 「こころの病気」とCo-MaMeについて

○第1章 こころの病気等のある児童生徒の支援について

○第2章 Co-MaMe（多相的多階層支援）の概要

- 1 適切な実態把握と支援
- 2 アセスメントシート
- 3 支援のイメージ図
- 4 教員間の共通理解
- 5 多相的多階層支援



こころの病気等のある子どもの教育支援（Co-MaMe）ガイドについて

○第3章 Co-MaMeの実施方法

- 1 Co-MaMeの実施方法-実態把握と支援方法の共通理解-

○第4章 こころの病気等のある児童生徒の教育的ニーズと支援例について
(6カテゴリー-40項目)

○第5章 各学校の取組



福島県立須賀川支援学校、東京都立武蔵台学園府中分教室、
富山県立ふるさと支援学校、埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校、
大阪府立刀根山支援学校、宮崎県立赤江まつばら支援学校、
沖縄県立森川特別支援学校
の7校の事例を掲載

<付録> アセスメントシート・整理用シート、支援配慮のイメージ図（40枚）

3. 全病連心身症等研究委員会 事例集 編集等への協力

13

全病連 精神疾患等のこころの病気のある児童生徒の指導と支援の事例集VI-「Co-MaMe」を活用した教育的支援-

以下の3つのシートから構成

- ・ Co-MaMeアセスメントシート
 - ・ Co-MaMe整理・変容シート
 - ・ **自立活動 事例シート**
- ・ 児童生徒26事例掲載(1事例3シート⇒3ページ)
・ 各学校へ紙媒体配布済み、全病連Webサイトに掲載予定



自立活動事例シート

学年、病名、教育課程

C-MaMeカテゴリー・項目を選択(【項目】収集した情報)

Co-MaMeと自立活動を線で結ぶ
(【項目】収集した情報の整理)

自立活動の区分・項目を選択
(【項目】必要な項目の選定)

Co-MaMeの「アセスメントシート・
整理用シート」「支援のイメージ図」
を参考に作成

4. 全国病弱虚弱教育実態調査 (施設調査・病類調査) への協力

児童生徒の病類に関する分析結果

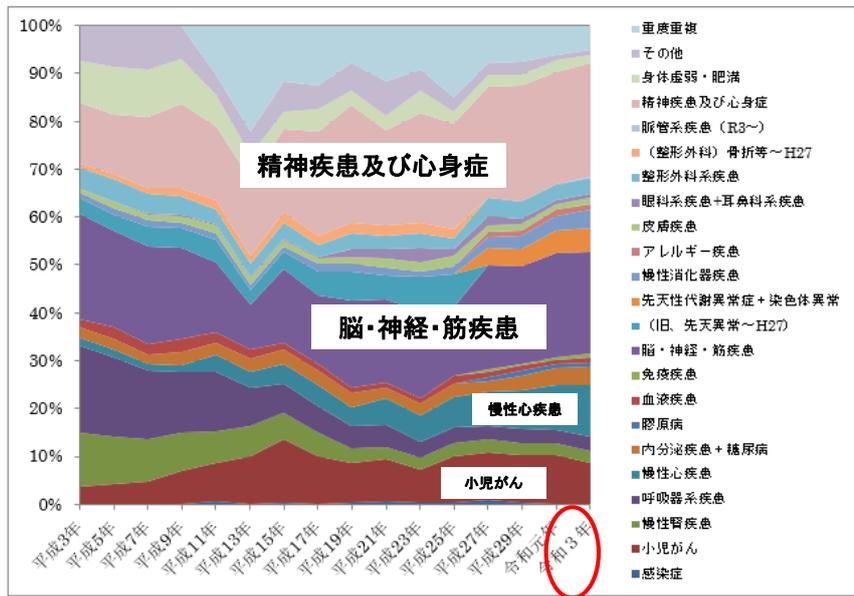
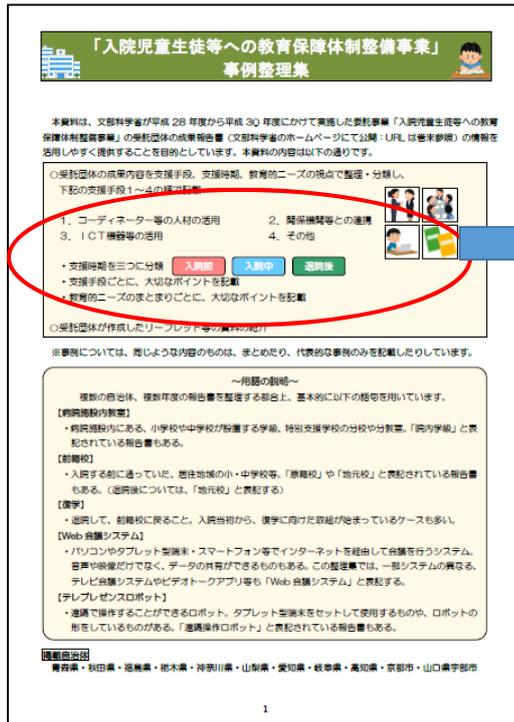


図2 特別支援学校及び特別支援学級に在席している児童生徒の病類の相対比（重複障害を除く）の経年的な変化[※]

National Institute of Special Needs Education

5. 「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」事例整理集



○以下の4つに整理

1. コーディネーター等の人材の活用
2. 関係機関との連携
3. ICT機器の活用
4. その他

○支援時期を「入院前」、「入院中」、「退院後」に分類

以下のURLからダウンロードできます。

https://www.nise.go.jp/nc/cabinets/cabinet_files/download/1079/12c8180d4c6f63b0855b364aacffc3d?frame_id=1235&category=study

入院中

児童生徒への支援

【支援事例①】

病室にいる複数の児童に向けて授業を配信した。分教室での授業と同じような形で学習ができるよう、**教員の顔と教科書・ホワイトボードを2台のカメラで写し、**それらが児童に同時に見えるようにしながら授業を進めた。

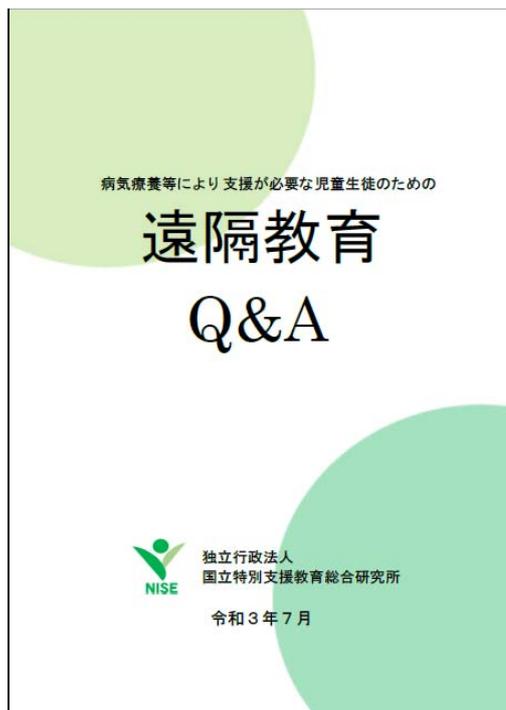


【支援事例②】

「**ベッドサイド学習セット**」を作り、各自の病室での自主学習や授業配信動画視聴等に活用できるようにした。タブレット型端末・パソコン、つなぎ方のマニュアル、個室ではない時用のヘッドフォン、授業配信動画のログイン方法マニュアル等がセットになっているため、**教員が一对一で指導できない時**でも学習をすすめることができた。



6. 遠隔教育Q&A



- ・Q1～Q35からなる
- ・基礎編
入院前 - 準備編 -
入院中 - 実践編 -
退院後 - フォロー編 -
巻末資料」から構成

以下のURLからダウンロードできます。
https://www.nise.go.jp/nc/cabinets/cabinet_files/download/1079/0908359489de45c210cbbb953c62f86a?frame_id=1235&category=study

遠隔教育Q&A（予定）

【退院後 - フォロー編 - 】

Q自宅等で遠隔教育を行う際に準備する機器・設備はどのようなものがありますか。

A.自宅等で行う場合は、それまで病院の病棟で使用していた施設・設備がそのまま使用できない場合がほとんどであると考えられます。

最も簡易に設備等を準備する場合は、授業内容にもよりますが、タブレット型端末とWi-Fiルーターがあれば最低限の遠隔教育は実施可能です。場合によっては通信に必要なアプリも準備しましょう。通信が途中で途切れることがないようにするために、タブレット型端末とルーターの距離を近くしたり、可能であれば有線LANを使用したりすることも考えられます。



23

特別支援教育専門研修 7. 病弱教育専修プログラム

24

特別支援教育専門研修 病弱教育専修プログラム

- 各障害種別の指導者（**スクールリーダー**）の専門性向上を目的とする
- 特別支援学校教員**においては**地域の中核**となるようその専門性の向上を図る
- 令和4年度専門研修（病弱教育専修プログラム）研修員**7名**
- 令和5年度は1月～3月（6週間オンライン、3週間集合・宿泊）にて実施予定

素晴らしい講師による充実した研修を準備しておりますので、ぜひ派遣等をよろしくお願ひします。

令和4年度 講義の例

- **喫緊の課題**
 - ・病弱教育における**ICT及びAT**活用の実際
 - ・**遠隔教育**による病気のある子供への指導と支援
 - ・**心理的不適応**のある児童生徒への支援に関する動向－**不登校**を中心に－
 - ・入院児童生徒への**教育保障**と支援
- **学習指導要領改訂**等を含めた講義
 - ・病気のある児童生徒の自立活動
 - ・病気のある児童生徒の教科指導の実際
- 精神疾患等の子どもの病気に関する講義（**Co-MaMe**等）
 - ・**精神疾患・心身症**のある児童生徒への教育的支援・配慮
 - ・子供のこころの理解 ～児童精神科医の視点より～

8. 令和4年度の研究

令和4年度の研究について

- ①病気のある児童生徒の教育的ニーズに基づく「**こころの病気**の子ども支援ツール-小・中学校の充実-」（仮）の開発に関する研究活動
- 特別支援学校（病弱）のセンター的機能の活用 -
- ②**慢性疾患等**のある児童生徒の教育的ニーズに基づく小・中学校への支援に関する研究活動
- 特別支援学校（病弱）のセンター的機能による支援 -

全病長・全病連の活動への協力

- ・ 全病連研究委員会への協力：（ ）は担当研究員
慢性疾患研究委員会 （生駒、五島）
神経・筋疾患等教育研究委員会 （嶋野）
心身症等研究委員会 （土屋）
脳性まひ等教育研究委員会 （大崎）
- ・ 全病連の全国病弱虚弱教育実態調査（施設調査）への協力
- ・ 全病長の支援冊子（病気の子どもの理解のために）の編集等への協力

ご清聴いただき、ありがとうございました

